

都道府県番号	17
都道府県名	石川県

【  】

学校名及び規模

学校名	七尾市立小丸山小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	3	3	3	3	2	18	27
児童数	75	68	95	82	90	86	4	500	

研究の概要

(1) 研究主題

自ら問題を解決できる子をめざして  
わかって楽しい授業づくり

(2) 研究主題設定の趣旨

21世紀を生きる子どもたちの現代社会は、日々、めまぐるしく変化し、次々と新たな問題が生まれている。学校教育で身につけた知識だけでは、これからの社会を力強く生きていくのは困難である。これからの社会を担う子どもたちが主体的・創造的に生きていくためには、新しい知識を次々に取り入れ、身につけた知識を活用しながら、新たな問題を一人一人が自分の力で解決し、未来を切り開いていく資質が要求される。

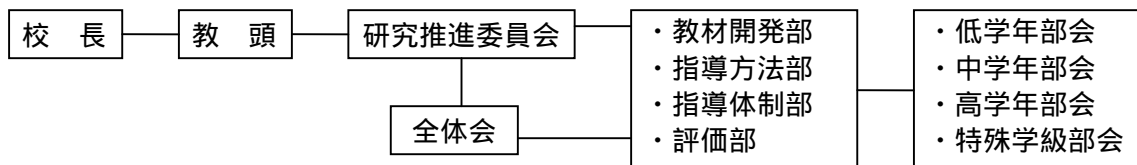
学習指導要領にも述べられている「基礎・基本を確実に身に付け、それを基に、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力」を「生きる力」の1つととらえ、自ら問題を解決できた喜びを数多く体験させ、粘り強さと創意工夫する力・既習の知識を応用する力を十分身につけさせたいと思う。そして、未知の問題や困難なことに出会ったとき、何とかして、それらを解決しようとする力を育てたいと考える。

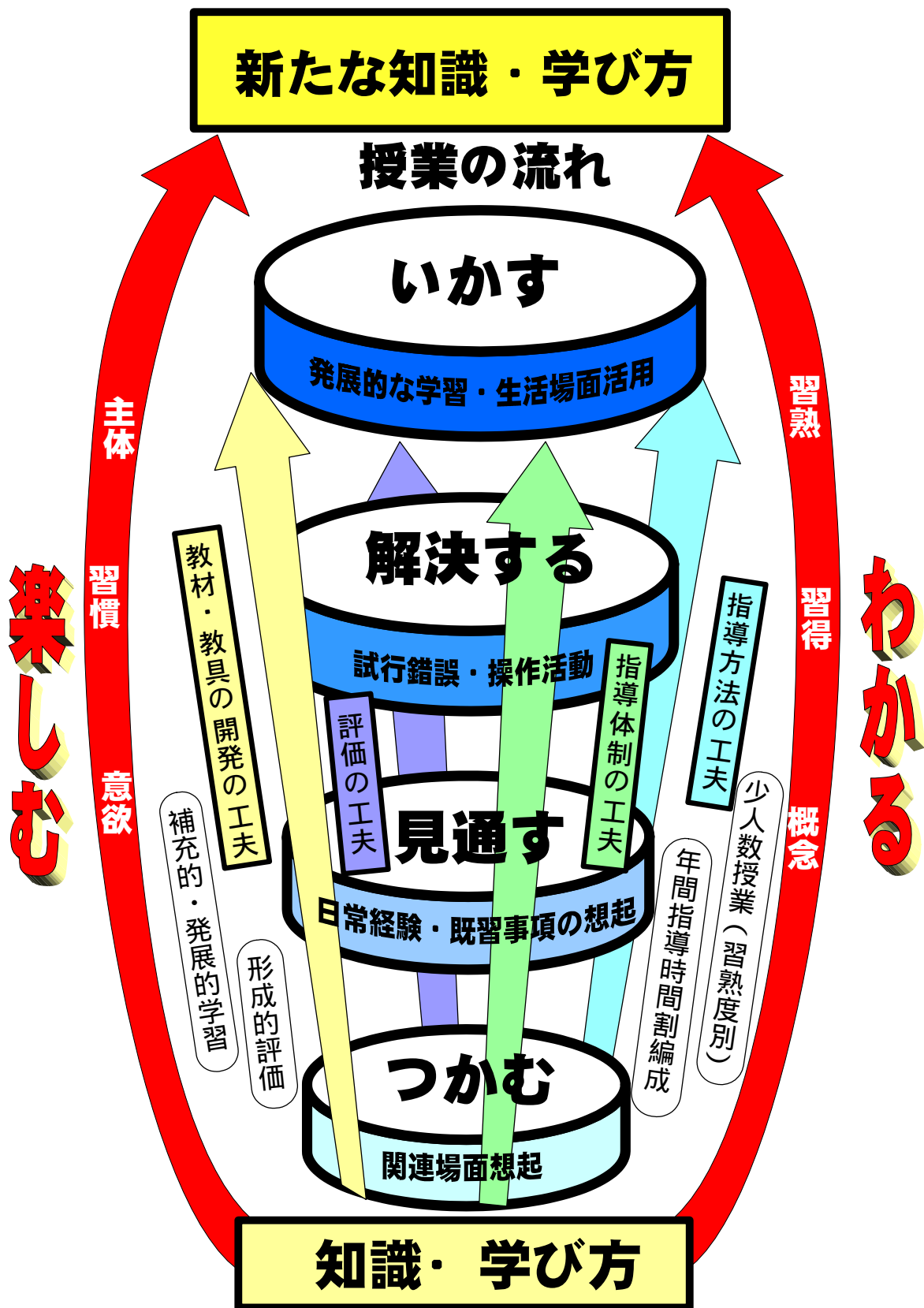
研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫

全員が「確かな学力」の向上のための実践研究に携わることができるように、昨年までの授業研究部を教材開発部など4つの部に分け、全員がいずれかの部に所属し研究を進める。また、低・中・高・特学部会を設け、教材研究や毎日の授業実践、研究授業など児童の発達段階を考慮して部会ごとに協力しながら行うことができるようにする。

さらに、全員の共通理解のもとで研究を進めることができるように、研究推進委員会と全体会を月に1～2回開催する。





(2) 研究の実際

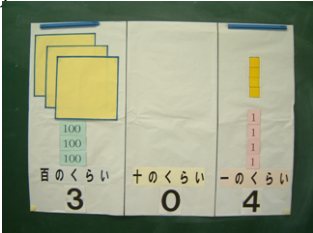
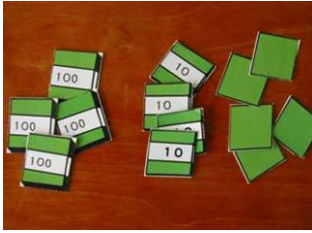

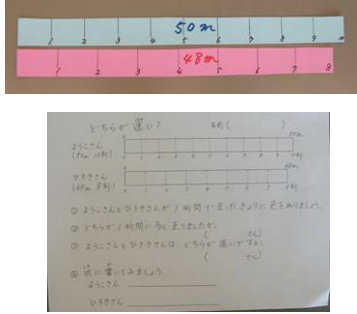
教材開発にあたっての着眼点

一人一人が「わかって楽しい授業」をするには、子どもが興味・関心をもつよい問題づくりが必要である。子どもたちが真に自分の問題として受け取れる教材開発を心がけなければならない。授業を効果的にする問題を次のように考えた。

- ア．学ぼうとする意欲を持たせるように工夫した問題
- イ．わかりやすくなるように工夫した問題
- ウ．操作的活動を上手に生かすように工夫した問題
- エ．学習に興味・関心を感じさせるように工夫した問題
- オ．学習の中で不思議さや知的好奇心をそそらせるように工夫した問題
- カ．自ら考える力・筋道立てて考える力を伸ばすように工夫した問題
- キ．発見の喜びやつくる喜びを味わわせるように工夫した問題
- ク．多様な考えを引き出し発現させるように工夫した問題
- ケ．アイデアや数学的な考えかたを発展させるように工夫した問題
- コ．能力差に応じ、個を伸ばすように工夫した問題
- サ．つまずきを生かすように工夫した問題
- シ．学習状況や学習の成果が評価しやすいように工夫した問題

効果的な教具づくり

子どもが問題を捉えたり推測したりして問題を追及するときを使う。

目で見えて理解する教具	操作して理解する教具
<p>2年 大きな数（具体物 半具体物 数字の全てが入る位取り板）</p> 	<p>4年 わり算（10の束・100の束）</p> 
<p>他の例</p> <p>2年 大きな数（具体物（小豆・ストロー等）を半具体物（ブロック）に置き換えて数字に置き換える。）</p> <p>6年 平均（棒グラフ）</p> <p>特学 時計の構成</p>	<p>他の例</p> <p>3年 わり算（クッキーや空き缶等）</p> <p>5年 子どもが操作しやすく、板書もしやすい大きさの三角定規使用</p> <p>5年 自作の発表ボード</p> <p>4年 球の切り口理解（オアシス）</p> <p>1年 数の構成（はてなボックス）</p>
個が選択できる教具	個に応じた教具
<p>3年 わり算（いちご・ブロック・磁石テープ・缶・クッキー、キャラクター・子どもの絵などを用意し自己選択する）</p> 	<p>6年 速度（1秒あたりに走る長さ＝テープ、ワークシート）</p> 
<p>6年 平均（ブロックを多いところから少ないところへ移動させて平均を出す。）</p>	

ヒントについて

ア. ヒントの目的


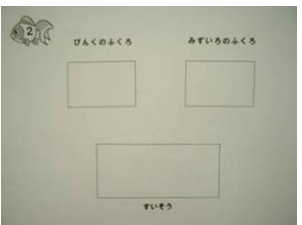
- ・多様な解き方を導き出せるように
- ・子どもが答えを確認できるように
- ・個に応じるように（書く量を減らすなど）
- ・つまづきを予想し、自分の考えを持てるように
- ・自力解決できるように

イ. ヒントの与え方

- ・全員に与える
- ・子どもが自分で選ぶ
- ・利用したい子に促す



ウ. ヒントの形式

- ・ワークシート

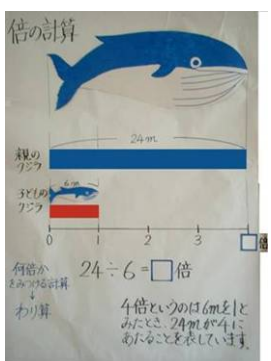
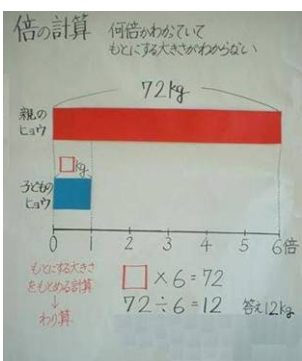
<p>1年 たし算（金ぎょをのせる＝表）</p> 	<p>（数字を入れる＝裏）</p> 
--	--

- ・写真（作図法など）

- ・操作できる具体物や半具体物

<p>5年 「垂直」の書き方の写真</p> 	<p>6年 単位量あたりの大きさ</p> 
--	--

- ・絵や図での説明

<p>4年 倍（倍を求める）</p> 	<p>4年 倍（もとにする量を求める）</p> 
--	--

- ・言葉での説明

<p>3年 わり算</p> <p>何をわけようかな</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いちご・みかん・りんご・クッキー・キャンディー</li> <li>みかん・おもち・じゃがいも</li> <li>りんご・はし・ジュース・りん</li> <li>ノート・きょうが・ごつし・アルバム</li> <li>いしがら・パン・かき・きり・あひる</li> <li>くるま・おひばり</li> <li>きり・あひる・へび</li> </ul>	<p>問題づくりのヒントカード</p> <p>&lt;1つ分問題&gt;</p> <p>1つ分(1人分)を もとの数量だよ</p> <p>□を □人に同じ数ずつ分けると、1人分は...</p> <p>★わかる数がわかってるよ</p>	<p>&lt;いくつ分問題&gt;</p> <p>□を いくつ分(何人分)を もとの数量だよ</p> <p>1人に□こずつ分けると 何人にわけられますか。</p> <p>★1つ分(1人分)がわかってるよ</p>
---	--	---

- ・教師の助言

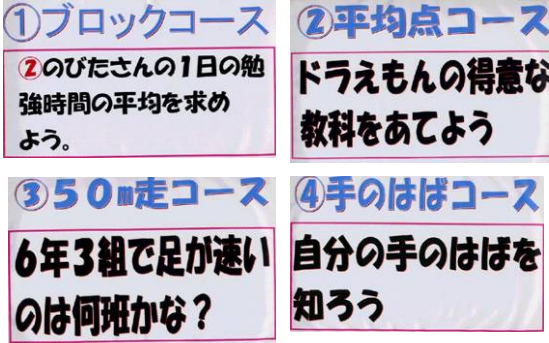

- ・ビデオ（作図法 5年）

補充的学習・発展的学習

ア. とらえかた

- ・ 補充的な学習...子どもの理解や習熟の状況に応じ、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るために行う学習である。おおむね満足できる評価に至るための補いの学習をいう。
- ・ 発展的な学習...学習指導要領に示す内容の理解をより深める学習や、さらに進んだ内容についてチャレンジする学習である。

イ. 内容

補充的な学習	発展的な学習
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コース別学習</li> <li>・ 復習を含んだゲーム</li> <li>・ プリント</li> <li>・ ワークシート                             <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 手だてのある穴埋め式のもの</li> <li>イ ヒントコーナーをもうけたもの</li> </ul> </li> <li>・ ノートの整理, 補充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コース別学習</li> <li>・ 教科書の発展問題</li> <li>・ おもしろワークシート                             <ul style="list-style-type: none"> <li>ア クイズ形式のもの</li> <li>イ 単元だけでなく他の既習事項も応用するような幅広い問題</li> </ul> </li> <li>・ 生活に利用できる問題</li> <li>・ 自学ノート</li> </ul>
<p>例 6年 平均の補充...コース別学習</p> 	<p>例 5年 小数の発展...コース別学習</p> 

(3) 研究の成果と課題

成果

- ・ 「算数が好きになった」「よくわかるようになった」「勉強が楽しかった」という児童が増えた。
- ・ 教科書の問題を参考にしながら、習熟度別のそれぞれのコースに合う課題(教材)をつくることができた。
- ・ 児童の生活場面から問題となる導入素材を用意したので、児童の学習意欲の喚起や持続の面で有効であった。
- ・ 算数的活動が有効に働き、児童が自分なりの新しい解決方法を見つけることができた。
- ・ 児童の理解や思考を助ける教具やヒントカードを工夫することができた。
- ・ ヒントコーナーを設置することにより、個に応じた操作活動ができた。

課題

- ・ 「わかって楽しい授業」の特に「楽しい授業」とはどんな授業かを明らかにし、「楽しい授業」を構築できるように授業改善をする。
- ・ 習熟度別少人数授業でのそれぞれのコースの児童に合ったより適切な課題を設定する。
- ・ 児童が自ら問題を設定する場面をつくる。
- ・ 個の支援のためのヒントカードや様々な教具を与えるタイミングを考える。
- ・ 個に応じた支援の仕方をより充実させる。

(4) 研究成果の普及の方策

- \* 平成15年11月28日(13:50~17:00)中間研究発表会を開催した。
- \* 中間研究発表会の研究紀要を近隣の小中学校に配布する。
- \* 今後の予定としては、平成16年10月に公開研究発表会を開催する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- |                      |                             |                   |             |          |
|----------------------|-----------------------------|-------------------|-------------|----------|
| 【新規校・継続校】            | 15年度からの新規校                  | ・14年度からの継続校       |             |          |
| 【学校規模】               | 6学級以下<br>・13～18学級<br>25学級以上 | 7～12学級<br>19～24学級 |             |          |
| 【指導体制】               | ・少人数指導<br>一部教科担任制           | T・Tによる指導<br>・その他  |             |          |
| 【研究教科】               | 国語<br>生活<br>体育              | 社会<br>音楽<br>その他   | ・算数<br>図画工作 | 理科<br>家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | ・有                          | 無                 |             |          |

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント（都道府県教育委員会記入）】

算数科においては、論理的思考や直感力を育てるために算数的活動ができる場面設定の工夫が大切であり、習熟度別少人数授業においては、一人一人の学習状況に応じた教材教具、支援の工夫が大切である。この2つの方向から、児童の課題の自覚化を図る手だてとして、多種多様な教材の開発と個に応じた手だての工夫に取り組んでいる。